

百万塔

孝謙天皇（718～770）は天皇の位を次の淳仁天皇に譲ったが、再度称徳天皇となった女性天皇であった。764年、道鏡という名の仏僧から影響を受けるようになった孝謙天皇は、職人に命じて100万巻の陀羅尼（祈祷文または護符）を印刷させ、それを収めるための同じ数の小さな木製の塔をつくらせた。このプロジェクト全体は孝謙天皇が770年に死去するまでに完成し、塔は十大寺に配布された。孝謙天皇はこの事業によって政争の滅罪と国が平穏になり、反乱が二度と起こらないことを願ったのだ。陀羅尼の巻物は、現在では世界最古の紙の印刷物とされており、中が空洞になっている百万塔の上部の装飾的な屋根を取り外すと、その中に収められていた。百万塔と陀羅尼は法隆寺以外に納められた9ヶ寺のものはすべてなくなり現存せず、法隆寺に収められていた10万のうち、約4万6千だけが残っている。